

診療局：内科《糖尿病・内分泌代謝内科》

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
主任部長兼検査科部長 兼臨床検査センター長兼甲状腺センター長	高野 徹
副部長兼糖尿病センター長	大槻 朋子
医 長	伊藤 博崇
医 長	高山 瞳
副医長	酒井 保奈

＜特色と概要＞

糖尿病・内分泌代謝内科では糖尿病および内分泌代謝疾患患者の外来および入院診療を行っている。外来部門において、糖尿病、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患の外来診察、糖尿病合併症進行予防のための療養指導(フットケア外来、透析予防外来)、甲状腺疾患の特殊検査・治療(RI検査・治療、甲状腺腫瘍のエコーガイド下穿刺吸引細胞診、PEIT)を行っている。病棟部門においては内分泌代謝疾患および一般内科疾患の入院中の管理を行っている。また他科入院症例の血糖コントロールを共観として担当している。

＜実績＞

外来診療については、糖尿病、甲状腺、その他内分泌疾患の患者を主に診療し、年間の延べ外来症例数は10,390人であった。また検査として甲状腺エコーおよび穿刺細胞診を当科で実施している。

入院総症例数は314症例であった。糖尿病症例は115例(1型糖尿病14例、2型糖尿病95例、膵性糖尿病4例)であった。また2021年10月より妊娠時糖代謝異常の症例を当科にて担当開始し、今年度は92症例を経験した。内分泌疾患は20例(下垂体機能低下症精査8例、甲状腺疾患3例、原発性アルドステロン症精査6例、副腎精査3例)であった。救命診療科入院後の転科症例などの一般症例(尿路感染症、肺炎、電解質異常等)は61例であった。入院中の他科依頼による共観については447症例を担当した。

糖尿病患者の外来での療養指導としては糖尿病透析予防指導を20件行った。またフットケア外来における患者指導は228件の指導を行った。

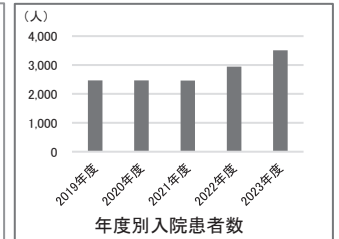
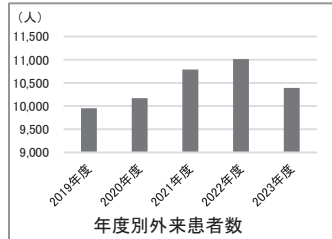
院外啓発活動として、第7回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを2023年11月12日(日)に3年ぶりの対面開催で行った。本年のテーマは『健康寿命をのばそう！～骨と筋肉と糖尿病～』であり、腎臓内科主任部長の重松隆先生より講演を頂き、その他骨密度チェックやABI測定などの無料検査、フレイル度チェックの体力測定などを行った。96名の

市民の皆さんの参加があった。

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移)

(人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2019年度	9,954	41.1	2,469	6.7
2020年度	10,171	41.9	2,470	6.8
2021年度	10,787	44.6	2,460	6.7
2022年度	11,014	45.3	2,944	8.1
2023年度	10,390	42.8	3,508	9.6



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)

(期間2023/4/1-2024/3/31退院)

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
妊娠中に発生した糖尿病	O244	64
詳細不明の糖尿病	E14	44
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>	E11	38
肺炎, 詳細不明	J189	21
尿路感染症, 部位不明	N390	12
1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>	E10	9
食物及び吐物による肺臓炎	J690	8
詳細不明の糖尿病, ケトアシドーシスを伴うもの	E141	7
低血糖症, 詳細不明	E162	7
細菌性肺炎, 詳細不明	J159	7
詳細不明の糖尿病, その他の明示された合併症を伴うもの	E146	6
尿管管間質性腎炎, 急性又は慢性と明示されないもの	N12	5
1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>, ケトアシドーシスを伴うもの	E101	4
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>, 腎合併症を伴うもの	E112	3
下垂体機能低下症	E230	3
アジソン<Addison>クリーゼ<発症>	E272	3
その他及び詳細不明の副腎皮質機能不全(症)	E274	3
体液量減少(症)	E86	3
低浸透圧及び低ナトリウム血症	E871	3
喘息発作重積状態	J46	3
感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎	A090	2
下垂体	D443	2
甲状腺中毒症, 詳細不明	E059	2
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>, ケトアシドーシスを伴うもの	E111	2
原発性アルドステロン症	E260	2
肺炎連鎖球菌による肺炎	J13	2
既存の糖尿病, 詳細不明	O243	2
熱及び光線のその他の作用	T678	2
その他のグラム陰性菌による敗血症	A415	1
敗血症, 詳細不明	A419	1
連鎖球菌感染症, 部位不明	A491	1
部位不明のその他の細菌感染症	A498	1
細菌感染症, 詳細不明	A499	1
下垂体	D352	1
気管, 気管支及び肺	D381	1
副腎	D441	1
亜急性甲状腺炎	E061	1
1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>, 合併症を伴わないもの	E109	1
詳細不明の糖尿病, 神経(学的)合併症を伴うもの	E144	1
抗利尿ホルモン不適分泌症候群<SIADH>	E222	1
尿崩症	E232	1
クッシング<Cushing>症候群, 詳細不明	E249	1
肥満(症), 詳細不明	E669	1
リン代謝障害及びホスファターゼ障害	E833	1
カルシウム代謝障害	E835	1

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
体液過負荷	E877	1
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	I10	1
発作性心房細動	I480	1
起立性低血圧(症)	I951	1

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

新型コロナウイルス感染症が蔓延している間は糖尿病等内分泌疾患の患者が当科の受診を避ける傾向があり、外来の紹介患者や新規の入院患者、特に糖尿病教育入院の患者が減少していた。今年度よりそのような傾向が見られなくなり、診療体制も以前の状態に戻りつつある。また今年度は久しぶりに、りんくう健康フェスタに市民を招いて実施することができた。

来年度に向けて、さらなる病診連携をすすめるために、糖尿病の合併症検査を近隣医が直接申し込めるようなシステムを構築中である。今後はこのような取り組みを基礎として、外来での紹介患者の受入数の増加や糖尿病教育入院を始めとした入院患者の増加を図っていきたい。